

## 会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成30年度第2回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	平成30年8月29日（水）10：00 ～ 11：30		
開催場所	市役所3階 市長応接室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市 長 小西理（◎） 教育長 日岡昇 教育長職務代理者 高木敏弘 教育委員会委員 八耳哲也 同 久家昌代 同 安倍映子</p> <p>◇職務により出席したもの</p> <p>総合政策部長 江南仁一郎 政策推進課長 太田明文 政策推進課副主幹 夜野友昭 政策推進課主事 東諭史 教育部長 小林一代 教育部次長 楠本茂樹 教育総務課長 秋山直人 教育総務課課長補佐 山元和夫 学校教育課課長補佐 川端哲巳 教育総務課副主幹 武田善雄</p> <p>◇傍聴者 無し</p>		
次回開催予定日	未定（平成30年11月以降）		
問い合わせ先	<p>所属名、担当者名 総合政策部政策推進課 夜野、東</p> <p>電話番号 0748-36-5527</p> <p>メールアドレス <a href="mailto:010202@city.omihachiman.lg.jp">010202@city.omihachiman.lg.jp</a></p>		
会議記録	発言記録 ・ <input type="checkbox"/> 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局

1. 開会

市長

2. あいさつ

- これまで3つの台風が本市へ接近した。改めて市民のみなさまをはじめ子ども達への安全面を配慮する必要性を感じた。
- 本日の議題は2つあるが、これからの教育行政の推進に向けて忌憚ないご意見をいただきたい。

教育委員会事務局

3. 議題

(1) 小・中学校における学びの現状と課題について

- **資料1**に基づき、本市における全国学力・学習状況調査の結果について教育委員会事務局より説明。
- 平均正答率は、全国及び滋賀県平均に届いていない状況である。
- 経年の変化を見ても、平均に届いていない状況である。
- その他、学習状況の調査結果について、本市の強みと弱みについて報告。

市長

- ただいまの説明があった状況を踏まえて、各委員からの意見をいただきたい。
- 資料の見方として、国語・算数のA Bの考え方は、Aが基礎問題で、Bが応用問題ということによいか。

教育委員会事務局

- その通りである。

八耳委員

- 学力、という意味での現状としては厳しい状況である。
- 先生の頑張りは認めたいが、学力をつける場が学校ということであれば、結果が伴っていないと言われてしまう。
- この調査は、現状分析を行うための調査であり。今回の結果を踏まえて教育委員会としても具体的な方策を検討したい。

安倍委員

- 調査の目的は本市の課題を出すことである。
- 学校は、わからないことがわかる場所であり、楽しい学校生活を過ごすことで豊かな心を醸成する場所であるべきである。
- そのためには、子ども達がわからないことをわかることができるよう先生の質の向上が必要であり、教育委員会としてそのサポートのあり方を考えていきたい。

高木委員

- 全国のなかでも滋賀県は下位であり、滋賀のなかでも本市は低い部類である。数字が全てではないが、良いことに越したことはない。
- 数字を出すことではじめて分析を行うことができる。また先生が危機意識をもてるような統計を出すことは必要である。
- 子ども達は無限の可能性をもっている。自分達が本当におもしろいと思ったことはどんどん取り組む。そのような仕掛けが教育現場では必要であり、そのことにより子ども達の学習意欲を高めることができる。
- 実感が伴い「なるほど」と思える授業が必要である。そのために、ふるさと学習や実験など、座学だけではなく体験を伴うことが必要である。
- 子ども達の頑張りが報われるような取組が必要であり、そのために市としての方針を立てて取り組むことが必要である。

久家委員

- この結果を見ても、保護者は危機感をもっていないと思う。わがことに感じている方はいないと思う。
- 学習の根本は、加減乗除の計算などの基礎学力であり、それが理解できていないと宿題にも取り組むことができないと思う。
- そのためには学校だけでなく家庭での関わり方が大切であり、地道な取組を積み重ねていく必要があると思う。
- 自分達が学習した時代と現在では勉強のやり方が違う。時代に応じた取組を検討・実施していくことが必要である。

市長

- 委員のなかで危機意識が薄いという意見がいくつかあったが、このことについて各委員の意見をお願いしたい。

八耳委員

- 学校現場での危機意識とは、かつては授業規律の確保という観点がメインであったが、現在はそのような意味では落ち着いていると思う。
- 生徒指導において、これまで安全面に向かってきたものを、これから学習指導に向かっていくことになると思う。またそうならないといけない。
- ただ、数字だけを追いかけることには疑問に思っているので、今後の進め方については、教育委員会でも現場と一緒に考えていきたいと思う。

市長

- 結果を保護者が気にしないという意見があったがいかがか。

久家委員

- 教育委員に就任する前にはほとんど気にしていなかった。
- 自分の子どもには大きく影響するものではないという認識であった。
- 他の方も同じであると思う。

- |      |  |
|------|--|
| 市長   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者の関わり方について、他の方のご意見はあるか。</li> </ul>  |
| 高木委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者が子どもに関わることは非常に大切である。以前に比べて関心も高くなっている。</li> <li>● 宿題や予習についても保護者がフォローする体制を教育委員会が示し、リードしていくことが必要であると思う。昨今はマニュアル化していることが多いので、マニュアルの作成を検討しても良いかもしれない。</li> </ul>  |
| 安倍委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 例えば50点の成績をとった子ども達が、50点分の指導だけしか受けていない、と感じているという意識をもって、先生方が取り組んでいるか、ということが危機意識であると考えて。</li> <li>● 自身の就学前教育の現場の経験を通じてだが、子ども達だけでなく親一人ひとりに、先生が向き合って話し合っていくことが必要であると感じており、一人ひとりの課題に向き合い解決することが、小学校での学びの基盤になるものであり、このことを伝えてきた。</li> <li>● 就学前教育での課題を、次の小学校に上がったときにどのようにつないでいくかということを整理する必要がある。</li> <li>● ある学校では、この調査結果を一人ひとりに個別に課題を伝えたところ、親から家庭教育等の必要性を感じたという意見を話された、調査を活かすということから考えると、各学校での課題に即して、各家庭・子ども一人ひとりに応じた対応が必要である。</li> </ul> |
| 市長   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 就学前教育が基盤にあり、それを小学校につないでいくことが必要だという話であったと思うが、どのように考えられるか。</li> </ul>   |
| 八耳委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校6年間の子どもの年齢の開きは非常に大きく、特に1年生の子ども達は、幼稚園や保育園での過ごし方や、家庭環境が大きく影響を受けていることを感じた。</li> <li>● 極端に言えば、就学前の環境が将来を決めるのではないかと感じ、生まれてすぐ教育が始まると考えたときに、教育委員会としてどこまでフォローできるかを考えるきっかけとなった。</li> </ul>  |
| 安倍委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事務局からの説明で、主体的学習が弱いという話があったが、就学前教育の現場では、主体的に関わって遊ぶという取組に重きを置いている。</li> <li>● 裏を返すと、小・中学校で主体的学習ができていないという課題があるからであり、就学前の活動をいかに小学校につなぐかということを考えていくことが必要であると考えて。</li> </ul>   |

市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就学前教育についての意見が多く出てきたが、事務局から現在取り組んでいることなどあれば説明をお願いしたい。</li> </ul>
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 校種間連携を行う取組として、中学校区単位で保幼小中の代表に集まっていたいただき、どのような能力を伸ばしていくかということについての情報共有を行っている。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭環境が最も反映されるのは就学前教育であり、その取組をどのように進めていけばよいかを考えていく必要がある。</li> <li>● 点数の向上をめざす、ということについても就学前教育の段階から検討する必要があると考える。</li> </ul>
日岡教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本市の仕組みとして、就学前教育については市長部局にあり、そのなかで幼稚園だけを教育委員会にて管轄している状況である。就学前教育と小学校の連携を考えると、組織体制の見直しも必要だと考える。</li> <li>● 子ども達が自らルールを考えて遊ぶ体験が必要である。そのなかで助け合いの心などを学んでいくことになる。</li> <li>● 昔は学校でも先生の意見に対して、他の方法を提案するなど意見が活発に行われたが、これらは就学前の遊びを通じて体験した経過が活かされており、必要なことであると思う。</li> <li>● 今回及びこれまでの調査結果を見ると、家庭学習には取り組めていないという傾向が毎年示されており、「家庭学習の心得」を作成し各家庭に配布し、また読書が足りないという意見については、「朝読書」の取組を実施するなど取り組んでいるが、改善できていないのが現状である。</li> <li>● 様々な取組を通じて、子ども達は変わろうとする努力はしている。この調査結果を、一刻も早く学校に伝え、一人ひとりの特性に応じて、2学期の学習に反映できるように取り組んでいきたい。</li> </ul>
高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 組織体制の改変が必要となるので軽々とは申し上げられないが、就学前教育は、教育委員会に付随させるべきである。</li> <li>● 子どもの立場で見た教育の一貫性をもたせていくことが必要である。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 即答はできないが、検討したい。</li> </ul>
八耳委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私立の保育園等については教育委員会として意見しにくい現状はあるが、組織に関係なく、本市の子ども達の教育について考える場を作り、協議することが必要である。</li> </ul>

市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国の傾向としては、両親ともに就労するという方向となっている。</li> <li>● 幼児課では、0歳児からの教育を考えており、就労支援という考え方のなかで、今後も進んでいくこととなると考えている。</li> </ul>
日岡教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの立場からみた教育と、両親の就労支援という福祉の観点から見た就学前教育を取り巻く関係は非常に取扱いが難しいと思う。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就労支援という考え方のなかで就学前教育の在り方を考えていくという傾向は進んでいくこととなるので、そのなかでできることは何かということを考えてたい。</li> </ul>
日岡教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2年前から公立だけでなく私立の保育園等にも教育について協議する場を提供しているが、反応が薄いという現状である。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市が先行した取組を実施し私立を牽引していくのも1つの方法である。</li> <li>● この項目に関して他に意見があればお願いしたい。</li> </ul>
久家委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども達が互いの関わり方で成長するという側面があり、幼稚園では遊びのなかから小学校に行くための生活態度等について学べる場所だと考える。自分自身がそうだったと思う。</li> <li>● 生活態度等については、幼稚園で学んだものを家庭がフォローすることの積み重ねで身につくものであり、小学校に上がっても役に立つものであると考える。</li> </ul>
安倍委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就学前教育に対する必要性を感じていただけたことは非常にありがたい。過去は、幼稚園を中心とした就学前教育を教育委員会で担ってきたが、昨今の機構改革で福祉部局へ移行している。</li> <li>● 今回意見としていただいた内容から、教育の側から再度現状を振り返る良い時期に来ているのではないかと感じた。</li> <li>● 主体的学習を進めていくためには、就学前教育に重点を置く必要があり、子ども達だけでなく親や先生にも学ぶ機会であり、そのことを教育改革のなかで検討していく必要があると考える。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多く意見を出していただいた。必要に応じてまた議論したいと思う。</li> <li>● 本日2つめの議題について事務局から説明をお願いしたい。</li> </ul>

## (2) 小・中学校における学びの現状と課題について

教育委員会事務局

- **資料2**に基づき、教育委員会事務局より説明。
- 資料1の報告により明らかとなった成果や課題、全国調査の結果等を踏まえて国で検討されている学習指導要領の改正概要、これらに対して現在市が取り組んでいる主な内容について報告。
- 以上を踏まえ、事務局として重点的に取り組んでいきたい内容を「重点項目」として報告

市長

- ただ今の説明を受けて、各委員から感想や意見をお願いしたい。

高木委員

- 重点項目の1つ目については、地域住民と関われる取組について、先生方にパターンを示して定着させていくことで、体験を通じた学習を行っていただくことができると思う。
- 地域内では、伝統行事等を引き継いでくれる方がなく、この取組を通じて地域の大人達が子ども達に教えることで、改めて地域内の伝統文化を見直していく機会になると思う。
- これらの取組については、先生だけに頼ることなく、地域の大人、特に子どもの親にも関わってもらい、共に取り組んでいければと思う。

久家委員

- 子ども達に自分の意見を発言させることは非常に難しい。
- 過去は、手を挙げて答えることが積極性だと認識され、それができないと主体的でないと判断されると厳しい。
- 自己主張の手段として、タブレットを使って意見を書き込みできる子ども達もいた。自己表現のツールとして有効であると感じた。

八耳委員

- 本市の弱みである「長文の読み取り」や「記述問題」といったものは学校で体験できるものであり、改善すべき取組である。
- 毎年実施されている全国学力・学習状況調査の問題は年々洗練されており、また調査対象の問題として適切なものであることを勘案すると、良い教材ではないかと思う。これらを利用すればよい。
- 近年の授業は、答えだけを出せばよいという風潮がある。ぜひ積極的に教材を活用し、自由な発言をしてもらえるよう取り組んでもらいたい。
- 現在の取組のなかで、個に応じた取組については子ども達の本音を聞き、授業に反映させる必要がある。
- 研究成果については、他の学校へ反映できていないように感じるので、先生の派遣等を行い、反映できるような工夫も必要である。
- 個人的な考えであるが、学校が自由に活用できる予算（学校裁量予算）を配分して管理職に各地域に応じて成果を出せる取組を検討するよう

な仕掛けをしても良いのではないかと考えているので、ぜひご一考いただきたい。

安倍委員

- 子どもがどのように主体的対話的に関わるかということは、先生方が主体性を示して、子ども達に見せていくところから始める必要がある。
- そのようなことを進めていく、ということを考えれば先の委員から提案があった学校裁量予算の提案はおもしろい試みだと思う。
- 先ほどの話に戻るかもしれないが、親子関係のなかで無条件に愛されていると感じることが、豊かな人間育成の基盤になるということを考えて、就学前教育がすべての教育の根本になるものであると改めて感じた。
- そのために現在も取り組んでいる「早寝・早起き・あき・し・ど・う」の取組を市民へもっと定着させる必要がある。
- また、先ほども話があったが、本市が他市町に先駆けて取り組んでいるタブレットの活用により、読み書きに障がいがある子ども達も表現できる機会を得た。子ども達がタブレットの活用により自分達の将来を変えるものになるかもしれない、ということ考えると活用を検討していかなければならないし、教育委員会としても支援する必要がある。
- これも先ほど話があったが、手を挙げて発言することだけが主体性なのか、ということについて私達自身もその意味をはき違えていないかを考える機会があった。
- このようなことから、個の違いを理解しその人にあった対応を考えていくことが必要であると感じた。

市長

- 主体性についてどのようにとらえるかご意見をいただきたい。

八耳委員

- 主体性とは、第3者が見てもわからないものであると思う。発言すること、書くこと、表情で表すことなど、子どもにとって様々である。
- そのことに先生方が気付くことが必要である。

高木委員

- 自分を表現できる環境があれば主体性は発揮できるものだと思う。
- それは、先生との信頼関係や教室・クラスの雰囲気に影響される。
- そのために先生は授業以外での関わりが必要であり、先生の力量が問われる部分である。

市長

- クラスの雰囲気づくりについてどのように考えられるか。

- |      |   |
|------|---|
| 久家委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業はわからないことを解決する場所であり、発言して間違えてもよい場所だと教えてあげることが必要だと思う。</li> <li>● それができれば、雰囲気は変わると思う。</li> </ul>   |
| 安倍委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 武佐小学校の公開授業で、間違えた答えに対してみんなで考える姿勢を見せられた。学校は勉強する場所で、間違えてもよいという雰囲気があった。</li> <li>● いかに関先生が子ども達のやる気をコントロールして、子どもと一緒に学ぶ姿勢を作っていく必要がある。</li> </ul>   |
| 八耳委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 先生方は、どのようなクラスにしたいか、どのような子どもを育てたいかという姿勢を持つ必要があるし、その姿勢を子ども達は敏感に感じる。</li> <li>● 授業は正解を出す場所ではなく、子ども達の考え方を引き出すために行うものであり、子ども達一人ひとりの想いを受け止めてもらいたい。</li> </ul>  |
| 市長   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業を早く進めていきたいと思っている先生が確かにいると思う。</li> <li>● 多岐にわたる課題が非常に多いテーマであるが、最後に意見があればお願いしたい。</li> </ul>  |
| 高木委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 資料1と2は関連が多い。</li> <li>● クラスで自分の個性が出せることがスタートになる。</li> <li>● そのために、間違えたことが言える雰囲気づくりと、間違いに対するフォローをしっかりと行うことで、互いの学ぶ姿勢から学習意欲の向上と、学力向上につながると思う。</li> <li>● クラスの雰囲気作りは、子どもの視点で取り組んでもらい、一人ひとりの個性を發揮し、出し合えるような取組を先生方には実施してもらいたい。</li> <li>● また、そのような先生を育成していく必要がある。</li> </ul> |
| 久家委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の子どもも小学生なので、一人の親として関りを持っていきたいと改めて感じた。</li> </ul>   |
| 市長   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本日の意見は以上となる。</li> <li>● 多岐にわたる内容であったが有意義な意見交換を行うことができたと思う。</li> <li>● 最後に、連絡等あればお願いしたい。</li> </ul>   |

#### 4. その他

高木委員

- ふるさと学習について報告したい。  
(追加資料の配布、報告)
- 別紙の内容は先生に取り組んでもらうためのパターンだのご理解いただきたい。
- 先生方に学んでもらい、子ども達に伝え、地域に愛着を持ち、将来的に歴史研究に携わる人材や、一度地元を離れても帰ってきて地域のために役立つ人材となってもらいたいと考えている。

事務局

- 次回の会議は11月の開催を予定しているので、後日日程調整を行いたい。

終了 11時30分